

児童が自分自身の成長を実感できる振り返り活動について — 理科学習において、「思考力・判断力・表現力等」や 「学びに向かう力・人間性等」について振り返る方策—

善通寺市立中央小学校
指導教諭 西村 和世

1 はじめに

主体的な学びの実現において、児童が学んだことを振り返って次につなげることは重要である。しかし、令和2年9月に本校の3～6年生を対象に行った理科についての自己評価アンケートでは、以下のような課題が見られた。

設問	R2年9月の肯定的回答の割合 (%)
思考力・判断力・表現力等に関するもの	
①問題解決のための方法を立案できるか。(5年生のみ)	46.9
②妥当な考えを作り出すことができるか。(6年生のみ)	42.9
学びに向かう力・人間性等に関するもの	
③見通しをもって理科の単元や授業を進めることができるか。	70.2
④授業を通して自身の成長に気付くことができるか。	62.3

そこで、学習指導要領で示された資質・能力の三つの柱の育成を図る授業づくりを行う中で、その目標に向かって身に付けた過程を児童自身が認知することができれば課題の解決につながると考え、成長を実感できる振り返り活動の内容や方法についての研究を行うこととした。ここでいう「振り返り」とは、一連の問題解決や単元が終わったとき、学びを通して身に付けたこと（知識・技能、思考力・判断力・表現力等、学びに向かう力・人間性等）を自分自身で価値付けることと捉えている。

2 実践の内容・方法

(1) 視点を明確にした振り返り

「何が分かったか」「何ができるようになったか」という「知識」についての振り返りは、これまでも行っていたが、「思考力・判断力・表現力等」や「学びに向かう力・人間性等」について振り返る実践は十分ではなかった。また、視点が明確でない振り返りを行ったときには、児

第4段階 (6年)	分かったこと。 できるようになったこと。	考察するときに 気を付けたこと。	解決するときに 気を付けたこと。	こだわって 追究したこと。	感動した こと。	もっと学び たいこと。	学んだこと の中で、自 分にとって 役に立つこ と。	学ぶ前の自 分と学んだ 後の自分を 比較する。
第3段階 (5年)		調べるときに 気を付けたこと。						
第2段階 (4年)		予想するときに 気を付けたこと。						
第1段階 (3年)		疑問をもつ ときに気を 付けたこと。						
	知識・ 技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等					

【資質・能力の三つの柱に即したものを選んで作成した振り返り一覧表】

童にとって目的のはっきりしない、価値が実感できないものとなっていた。

そこで、教科用図書（「新しい理科」東京書籍）に示されている振り返りの視点や、前文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官 鳴川哲也氏らの著書、振り返りについての書籍を参考に視点について研究し、その中から資質・能力の三つの柱に即したものを選んだ。

さらに、教員も児童も継続して視点を意識した振り返りができるように、一覧表にまとめて理科室に掲示したり、児童のノートに貼ったりするようにした。

（２）ICTを活用して振り返りを交流する方法

振り返りを書いた後、友だちと交流することで児童は、「確かに今日はそのように考えたね。」「なるほど、今日学んだことは生活に役立つんだね。」と振り返りを深めることができる。しかし、45分の授業時間内に振り返りについて交流する時間は十分とれない。そこで、1人1台端末用情報共有アプリのロイロノートを使って、短時間で交流する方法を開発した。

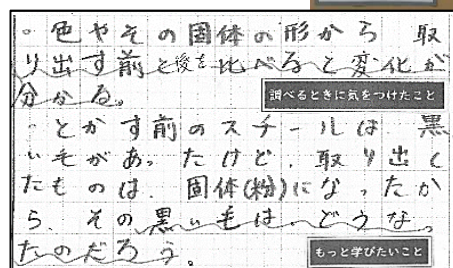
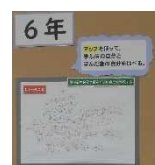
児童は、ノートに記述した自身の記録を1人1台端末で撮影し、提出箱に提出する。その際、振り返り一覧表に示された色（「知識・技能」に関する内容は赤、「思考力・判断力・表現力等」は青、「学びに向かう力・人間性等」は緑）のシートを画面上に示すようにした。電子黒板に提示された児童のノート一覧には、一人ひとりがどの観点に関して振り返ったのかが色別に示される。振り返りを書き終わった児童は、電子黒板を見ることで、友だちが選んだ観点や内容を知ることができるようにした。



【全員の振り返りが提示された電子黒板を見る児童】

（３）校内研修を通して、めざす振り返りの姿の共有

児童が表現した振り返りにはどのような価値があるのかを、教員も児童も共有することがさらによりよい振り返りにつながる。そこで、児童の表現物を持ち寄り、価値付けをする研修を行った。特に、若年教員から「思考力・判断力・表現力等」に関する振り返りを促すのが難しいという意見が出され、効果的な支援の方法を話し合った。研修後には、資質・能力の三つの柱に沿って振り返りができている児童の表現物を集めてボードに貼り、児童がいつでも見て参考にできるよう、理科室に掲示した。



【児童の表現物と観点を示して掲示したボード】

3 実践の成果

（１）目標を意識した振り返り

日常的に振り返りを行い、何について振り返るかという視点を児童が明確にもつことで、目標を意識した振り返りを書くことができるようになった。今までは「分かったこと」「できたこと」についての記述が多かったが、本実践によって、学習に取り組んでいる最中の自分をメタ認知し、「他の班との結果を比較したことで、実験

を見直したり再実験したりすることができた。」という科学的に解決する価値に触れる内容や、「今日の学習から、自分の家の〇〇について調べてみたい。」という「学びに向かう力・人間性等」に関する内容が見られるようになった。理科が役に立つ、生活につながるという内容が多くなった。

ある児童は、「知識・技能」に関する振り返りを書く傾向があったが、友だちの振り返りを読むことで、「調べるときに気を付けたこと」や「感動したこと」等の「学びに向かう力・人間性等」の観点でも記述できるようになった。

ぼくは、今までハザードマップを使って自分の家や学校にどのような危険があるかを調べるのが好きでした。でも、自分たちでつくったことがなくて、今回、ハザードマップを実験結果からつくったのがバの中ではびっくりにしています。

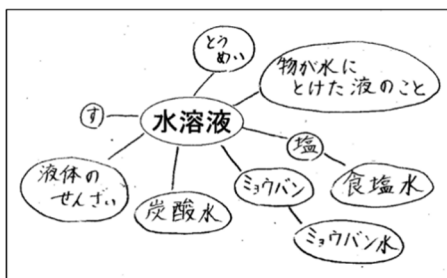
【「学びに向かう力・人間性等」に関する児童の振り返り】

(2) 児童が自身の成長を実感

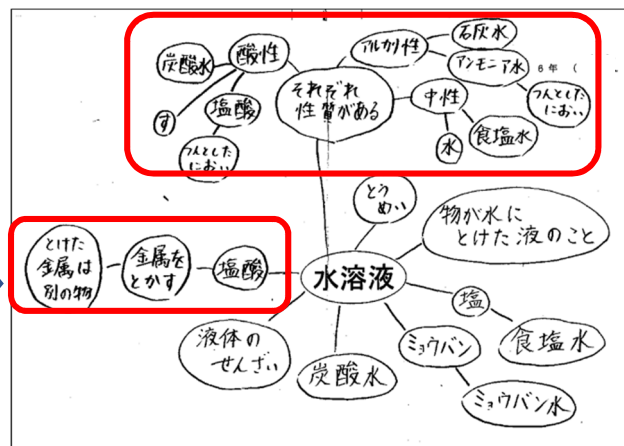
以下は、令和4年7月に実施した理科アンケートの結果である。

設問	R4年7月の肯定的回答の割合 (%)	R2年9月との比較
思考力・判断力・表現力等に関するもの		
①問題解決のための方法を立案できるか。(5年生のみ)	97.1	+50.2
②妥当な考えを作り出すことができるか。(6年生のみ)	77.4	+34.5
学びに向かう力・人間性等に関するもの		
③見通しをもって理科の単元や授業を進めることができるか。	86.7	+16.5
④授業を通して自身の成長に気付くことができるか。	80.7	+18.4

視点を明確にして継続的に振り返りの場を設定したこと、文章による記述以外にもマップ図等の様々なバリエーションで取り組んだことが効果的だったと考えられる。さらに、教員に与えられた視点で振り返るのではなく、ノートに貼られた振り返り一覧表を見て児童が何を振り返るか自己選択する力が育ったことも、成長の実感につながったと思われる。自分の振り返りの傾向を知ったり、問題解決の途中で「今日は〇〇について振り返れそうだ。」と発言したりする姿が見られた。



【単元の初めにかいたマップ図】



【単元の最後（学習後）に加筆したマップ図】

(3) 振り返りを評価に活用

教員が振り返りの視点を事前に想定して授業を行うことで、児童が表現した振り返りを評価に生かすことができるようになった。特に、児童が「粘り強く学習に取り組む」姿や「学びを調整する」姿が振り返りに表れ、観点「主体的に学習に取り組む態度」についての評価を行う際の材料の一つとして活用することができた。また、校内研修において振り返りの価値付け方についての研修を行ったことで、児童の記録を基にして、評価規準を確認することもできた。

4 普及させたい取組と期待される効果

本実践を通して普及させたい取組は、「振り返りの視点を精選し、明確に示すこと」と「教員も児童も視点を共有すること」である。特に、「学びに向かう力・人間性等」の中の「感動したこと」や「こだわって追究したこと」、「もっと学びたいこと」という視点での振り返りは、児童が学ぶ意義や学びの有用性を実感することにつながる。

振り返りは、学習前の自分と学習後の自分をつなぐ役割をもつ。視点を明確にした振り返りを継続することで、教科の目標達成に向けて、児童が自分の学びの現在位置を把握することができる。さらに、次の目標を設定したり、達成に向けて見通しをもったりする力も育つと考える。

5 課題及び今後の取組の方向

児童によっては、自身の成長に気が付いていなかったり、気が付いていても表出できなかったりする場合がある。

今後は、更に、児童同士による価値付けや称賛（「〇〇さんは、問題解決のために□□と考えていたね。」「〇〇さんは、□についてこだわって追究していたね。」等）を通して、自身の成長を実感できる効果的な支援の在り方について研究したい。

<参考文献>・「イラスト図解ですっきりわかる理科」

鳴川哲也、山中謙司、寺本貴啓、辻健 著 東洋館出版社

・「イラスト図解ですっきりわかる理科 授業づくり編」

鳴川哲也、山中謙司、寺本貴啓、辻健 著 東洋館出版社

・「アクティブ・ラーニング時代の「振り返り指導」入門」

梶浦真 著 教育報道出版社